

アーカイブズ

ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第22号
平成15年6月25日発行



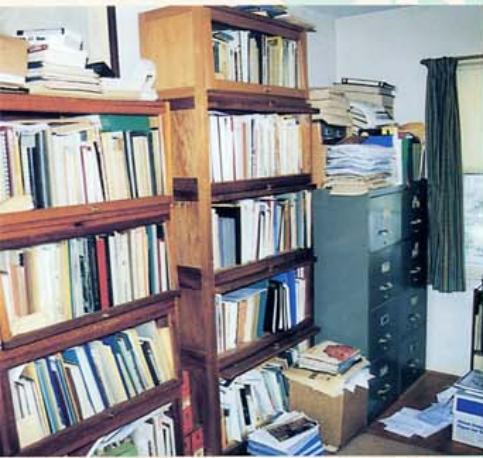
琉球列島軍政府報告書（フライマス・コレクション）



晩年のエドワード・フライマス氏 1997年3月



バジル・ホール著「朝鮮・琉球航海記」 フライマス・コレクションには琉球関連の欧文文献も含まれる (資料コード: 0000025989/0000025988)



フライマス・コレクションの一部 主題ごとに整理されていた
(米国/バージニア州のフライマス氏ご自宅にて撮影)



オリジナルオーダー (フライマス氏のご自宅にあった並び) を点検し、
資料登録の準備をしているところ。

今回公開される資料の内訳

資料種別	シリーズ内容	資料数
1 図書	洋書／和書	431
2 定期刊行物	沖縄関連記事の掲載された定期刊行物 学術誌、写真雑誌、情報誌等	1,509
3 パンフレット・小冊子	経済／教育／国際交流／移民／美術／民芸／ 芸能／地理／地質／労働／法律／医療／広報／ 観光／宗教／切手／その他	599
4 政府報告書類	米国政府作成の報告書、日本政府作成の報告書等	416
5 文書類	沖縄に関する記事の切抜／米国の沖縄統治に 関する文書／沖縄返還に関する文書／沖縄の 地位に関する文書／土地問題に関する文書／ USCAR法令集／地元ニュース翻訳／沖縄県訪 米団に関する文書／在沖米軍に関する文書／ その他	489
6 論文	修士・博士論文含む	112
7 地図・ポスター	沖縄島における米軍施設分布図、在沖国人 用観光案内図、道路地図など	14
8 その他	ネームプレートなど	27
合 計		3,597



Background Information Booklets

フライマス・コレクションには、フライマス氏がUSCAR時代に作成した行政資料が多数あり、各市町村ごとの概要を、沖縄本島、宮古、八重山、その他離島の箇域別にファイルで収められている。
(資料コード: 0000025308~0000025311)

特集 フライマス・コレクション

The Edward O. Freimuth Collection

故エドワード・フライマス氏(1919~2001年)のご遺族より、フライマス氏が長年にわたって収集した沖縄関係資料のコレクション(約4,000冊)が沖縄県公文書館に寄贈されました。

フライマス氏は、1946年5月、陸軍将校として来沖しました。沖縄での最初の任務は、住民への食糧配給、内地や外地から引き揚げてくる住民の受け入れでした。その後、市町村制の確立など沖縄の戦後復興全般に関わりました。

1947年11月に陸軍を除隊。以後、文官として軍政府(MG)・民政府(USCAR)に務め、USCARの涉外局長などの要職を歴任しました。夫人のマージョリーさんは、国際婦人クラブ等を通して沖縄住民と交流を深めました。

フライマス氏は1966年7月にワシントンへ異動となります。そこで沖縄問題の実務責任者である国際問題担当陸軍次官代理の特別補佐官として、沖縄返還など沖縄問題に深く関わることになります。1974年に陸軍省を退官。その後も沖縄関係資料の収集や研究者への資料提供などを通じて、引き続き沖縄に深く関わりました。

フライマス・コレクションとは、フライマス氏が生涯に亘り収集した沖縄関係資料の集大成を指します。米国の沖縄統治に関する資料をはじめ、18~19世紀に刊行された琉球に関する欧文文献、沖縄関連図書、雑誌、パンフレット、新聞切抜、論文、地図等からなり、その書架に占める長さは約40メートルにもなります。故フライマス氏の沖縄に対する深い思いを知るご遺族が、同資料を沖縄のために役立ててほしいと希望され、今回の寄贈となりました。

資料の公開日は平成15年6月25日です。なお、一部未整理の資料については整理次第公開いたします。



1945年4月1日から46年4月1日まで米国沖縄占領一年のあゆみを
まとめた小冊子 (資料コード: 0000025603)



沖縄返還協定等に関する米国連邦議会刊行物
(資料コード: 0000030324~0000030339ほか)



Japanese Flag Issue in the Ryukyu Islands (資料コード: 0000024734)
琉球船舶旗のデザイン等決定までの一連の資料のほか米国統治下の沖縄
における日の丸掲揚に関する資料を含む。



1966年、フライマス氏がUSCARを離任する際に撮影。
右から松岡政保行政主席、長嶺秋夫立法院議員、フライマス氏、
マージョリー夫人

新しく収集または公開した主な資料を紹介します。

隈崎勝也氏寄贈資料

鹿児島県在住の隈崎勝也氏から、昭和6年から昭和19年にかけて沖縄で撮影された写真の複写資料16点が、平成15年4月14日に寄贈され、閲覧に供しています。昭和13年の沖縄県庁正面玄関前での記念写真をはじめ、昭和12年頃の工事中の武徳殿前の記念写真、昭和13年頃の警察部の波之上宮参拝の写真、昭和18年の沖縄県立第三高等女学校の校舎等、戦前の施設の面影を見ることができます。また、昭和16年当時の第25代早川元知事の軍服姿や昭和13年の警察関係の人々、昭和16年と昭和10年の甲辰尋常小学校の校長先生や子供たちの様子、昭和18年の県立第三高等女学校の生徒(なごらん学徒隊)・昭和19年の県立第一高等女学校(ひめゆり学徒隊)の生徒の姿、昭和9年に運行していた「新垣バス」等が写っており、何れも戦前の沖縄の様子を彷彿させる貴重な資料です。



昭和13年 沖縄県庁正面玄関前 (資料コード: 0000028530)

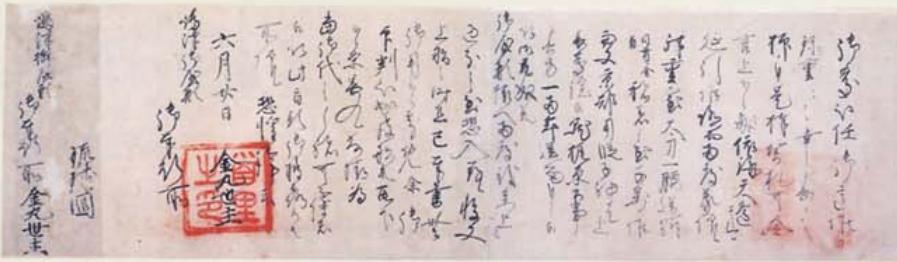
島津家文書 (琉球関係史料)

東京大学史料編纂所の所蔵する島津家文書の中から、琉球関係史料約475点を選択し、カラーマイクロ撮影(2682コマ)を行い、デジタル画像データ及び複製本で収集しました。これらの史料は、7月の下旬には複製本で閲覧することができます。

島津家文書は旧薩摩藩主島津家重代相伝の文書であり、総点数約17,000点、時代は平安時代から江戸時代に及ぶ武家文書で、平成14年6月26日に国宝に指定されました。島津家当主宛の文書の原本をはじめ、重要文書の案文や島津家当主の書状案、そして島津家当主一族間の往復文書や系図・家譜、また絵図等が黒漆塗箱や白木箱、長持、小箱、筆筒等に収められています。

今回収集した島津家文書の中の琉球関係の史料は、大水六年の「琉球國世主書状」をはじめとする琉球国王の島津家当主宛の書状や、島津家当主から琉球国王宛の書状の案文、また琉球国王や三司官の起請文、さらに郡村高辻帳等があります。

これらの史料は、15~16世紀海外交易を行い薩摩とも親交を結んでいた琉球が、1609年の薩摩の侵攻をへて幕藩体制下へ組み込まれていった過程を示す貴重な史料群です。



琉球國金丸世主書状 (国宝) 1471年 (文明3) 東京大学史料編纂所蔵

立法院会議録

県議会図書室所蔵の琉球政府立法院会議録(本会議)マイクロフィルムを複製で収集しました。この会議録は琉球政府公報の号外として発行されたもので、原本の総ページ数は約2万枚にのぼります。利用しやすいよう検索用の目録を作成する予定です。立法院議会は、1952年4月1日から1972年5月14日までの間に49回開かれ、多数の立法・決議・予算審議等を行いました。



琉球政府公報 号外
1958年2月14日
第10回議会 (定例) 琉球立法院会議録31号より

広報課引渡写真資料 (琉球政府時代撮影)

公文書館は、県広報課が保管していた写真資料約90,000件の引渡を受けました。これらの写真は広報・広聴用の資料として撮影されたもので、そのおよそ7割が琉球政府時代に撮影されたものです。

古いものでは1953年にさかのぼるこれらの写真には、沖縄県のあゆみが克明に記録されています。アイゼンハワー米大統領の来沖や高等弁務官との会談の様子といった歴史的節目の記録だけでなく、行政主席が県内各地を視察した際に撮影された当時の各地の姿なども見ることができます。琉球政府の職員の表情も豊かに残されています。

公文書館では、これらの写真資料の整理を進めており、画像のデジタル化も併せて行なっています。



琉球政府庁舎での会談の模様。



1960年6月19日、アイゼンハワー米大統領は嘉手納基地に到着し、大田政作行政主席とともにオーブンカーで那覇に向かった。

米海兵隊撮影 沖縄戦写真資料

米国国立公文書館より平成13年に収集した、沖縄戦当時の写真385枚の整理が完了し、4月より閲覧に供しています。

那覇市首里 円鑑池・龍潭(首里城付近)
1945年6月8日撮影
「米海兵隊写真資料 16」
(資料コード: 0000010881)



食糧配給に並ぶ住民の列
右端の道路分岐点には赤十字のテントが見える。
1945年6月28日撮影
「米海兵隊写真資料 17」
(資料コード: 0000028526)

収集または寄贈を受けた資料は、目録作成などの整理を終えた後に閲覧できるようになります。

知つてると便利

写真の保存について —荒井宏子氏講演会より—

写真は、物体の画像情報を目に見える形で再現します。情報容量も大きく、また、近年では手軽なども手伝って、医学・科学・芸術分野以外に記録媒体としても広く活用されています。

写真的歴史はわずか百六十年余ですが、その間に様々な方式の写真が生まれて消えていきました。最近ではセルロースアセテートやポリエスチルベースのフィルム、プリントではパライタ紙や樹脂加工紙に銀や染料で発色した画像をゼラチンで結合したものが主流になりましたが、古い写真是いろいろな材料が使われたので、実際には幾つもの種類に分けられます。ちなみに、現在一般的に普及しているカラーフィルムの登場は昭和三十年代後半で、材質の堅牢性などが向上したのは昭和六十年以降のことですから、それ以前の写真的保存にはよく注意する必要がありましょう。

そこで、今回は写真をいかに長く保存していくかについて、今年一月当館で開催した資料保存講演会の荒井先生のお話から、かいつまんでご紹介したいと思います。

まず、写真を適切に保存するには、写真が形成されている材料と処理条件、さらに保存条件を整えることが大切です。

写真は構造上、画像、結合材、支持体等が重なっています。それらの材料には、画像を形成する銀・染料・顔料、結合材として卵白・ゼラチン・コロジオン・アラビアゴム等、支持体として金属板(銅や錫)・紙・ガラス・プラスチック・布・板・陶磁器等があり、それらの組み合わせで写真は成り立っています。このどちらかの材質や各層の間で起る問題、さらには、写真が貼られている台紙などが原因となって写真の劣化が起ります。

つぎに、処理条件では、処理液の疲労や定着不足、不完全な水洗処理による残留薬品や未反応成分が問題になります。

保存条件は、写真方式によって違いますが、

が、基本的には温度と湿度の管理、清潔な保存環境、光からの保護が必要です。厳密に保存するには写真的方式を識別し材料を把握することから始めるなければならぬようですが、素人には古い写真的識別は難しいので、こでは最小限実行しておきたいことをあげました。

- 中性紙などで作られた安全な保存容器に収納する。
- 金属缶やプラスチックケースなど密閉性の高い容器への収納は避け、どうしても使う場合は日々風通しする。
- 保存場所は床上四十七センチ以上の所に設ける。
- 高温・高湿を避け、相対湿度六十パーセント以下で温湿度変化の少ない冷暗所に保存する。
- 喫煙所、複写機、新しい家具類のある場所には置かない。
- 空気がこもらないように注意する。
- 小型の低湿度保管庫を使用する。

とくに、写真を収納する保存容器はJIS規格(※)にそったものを使用

し、湿度管理に配慮することをおすすめします。また、素手で触ったり擦り傷をつけたりしないよう、取り扱いにも十分気を抜けましょう。

(写真—現像処理済み写真フィルム、乾版及び保存容器)

JIS K 7641・K7642・K7644
より荒井宏子氏作成

保存条件—温湿度—

JIS K 7641・K7642・K7644
より荒井宏子氏作成

プリント類

	相対湿度 %RH	最高許容温度 °C
紙・ゼラチン印画	30-50	15-20
カラープリント	30-50	2以下

フィルム類

感光層	ベースの種類	中期保存		長期保存	
		相対湿度 %RH	最高許容温度 °C	相対湿度 %RH	最高許容温度 °C
紙・ゼラチン	セルロースエスチル	15-60	25	13-50	21
紙・ゼラチン	ポリエスチル	30-60	25	30-50	21
カラーフィルム	セルロースエスチル	15-30	10	15-30	2
カラーフィルム	ポリエスチル	25-30	10	25-30	2
乾版	ガラス	20-50	25	30-40	18

アメリカ駐在員連載コラム

アメリカ通信 No.11

「戦争と記録遺産」

公文書専門員 仲本和彦

「宇宙からエイリアンがやってきて、大きな磁石で地球を包むと、人類の文明は一瞬のうちに失われるよ。」

これは、五年ほど前、沖縄関係映画フィルム収集の件で、ある複製会社に相談した際、S社長が私に言つた言葉です。近年、同社が受注するドキュメンタリー・フィルムは、安価で編集しやすいデジタルが主流で、昔のような三十五ミリのロール・フィルムはすっかり減つてしまつたそうです。しかし、デジタル記録は、紙やロール・フィルムなどと違つて、ファイルの一部が少しでも壊れると、記録を再生することができなくなることから、最近のデジタル化の傾向を嘆いていたのでした。

「エイリアンと電磁波? ? ?」その話しを聞いて、映画『インディペンデンス・デー』のシーンを思い浮かべた私でしたが、「所詮、空想の世界」と、それ以上そのことに考えを巡らすことはありませんでした。

ところが、先のイラク戦争で、はつとさせられるニュースが目に止まりました。米軍が実戦で初めて「電磁波爆弾」を使用した可能性があるというのです。これは、目標に向けて発射したミサイルから高エネルギーの電磁波を放射することによって、コンピュータや電話など電子・通信機器を使用不能にし、相手の指揮系統を麻痺させると

いうものです。エイリアンこそ登場しないものの、S社長の言つていた電磁波攻撃が、現実に存在することに驚かされました。その報道が事実だとすれば、イラク政府の記録の多くが失われてしまったことでしょう。

最初の文字を発明し、人類の「歴史」を拓いたメソポタミアの地です。かの地の人々は、神殿へ奉納する家畜や穀類などの種類や数をやわらかい粘土板に刻み、乾燥させて保存し、いわゆる人種最初の公文書も残しています。ところが、今回の戦争では、各地の博物館が略奪に遭い、この粘土板を始めとする数十万点の考古学資料や展示品などが一瞬にして消え去つてしましました。

我々は一般的に、「歴史」とは、先人が長年に亘つて培つてきた目には見えない何かで、それを引継ぎ、積み重ねていくことはあつても、既にあるものを失うことはない、と考えがちです。しかし、実際には、記録が無くなれば、「歴史」も存在しません。

核兵器や電磁波爆弾など、人類の遺産を一瞬に消滅させることのできる武器が存在する今、それによつて「先史時代」に後戻りする可能性もないとは言えません。この戦争は、人の命のはかなさとともに歴史のはかなさを思いました。

利用者の声

公文書館を見学することによつて、公文書館の機能や役割について理解してもらうことを目的に館の視察・見学案内を行つています。今回、沖縄女子短期大学の学生、北丘小学校児童の皆さんのお声を紹介します。

南風原町立
北丘小学校

(三年生 八名)

(平成十四年十月二十二日見学)

沖縄女子短期大学

(津留ゼミ二十四名)

（略）――公文書館内には、貴重な本や資料がそのままの状態で大切に保管されていた。破れたり、穴があいたものは一枚一枚スタッフの方が丁寧に小麦粉を使ったのりで直していた。この資料をはじめ、数少ない貴重な本等、「利用証」を持つれば閲覧室において自由に閲覧することができる。

今後注目される資料として米軍が一九四四年一九四五年にかけて沖縄各地を撮影した空中写真を米国国立公文書館から収集し、デジタル化し、その撮影された地域をコンピュータの画面上で拡大して見ることができるそうだ。

日本復帰三十周年記念特別展「資料に見る沖縄」では、琉球王国時代、廃藩置県、米国の沖縄統治時代、そして日本復帰といった「世代わり」を経験した当時の人々の歴史を見学することができた。



平成15年度 沖縄県公文書館 行事案内

展示会

- 常設展「沖縄県公文書館の収蔵資料」
期間 4月15日(火)～7月27日(日)、10月28日(火)～
場所 当館展示室
- 企画展「公文書館収蔵資料に見る沖縄の乗りもの今昔」
いまむかし
期間 8月8日(金)～10月12日(日)
場所 当館展示室
- 移動展「沖縄県公文書館収蔵資料に見る多良間」
期間 9月4日(木)～9月15日(月)
場所 多良間村中央公民館

講演会 (当館講堂)

- 歴史講演会 「ペリー提督と琉球王国」
講師 照屋 善彦 琉球大学名誉教授
日時 7月11日(金) 午後6時30分～8時
- 歴史講演会 「沖縄の鉄道」
講師 ゆたかはじめ エッセイスト
日時 9月19日(金) 午後6時30分～8時
- 資料保存講演会 「今後の記録資料の虫菌類対策について」
講師 木川りか 東京文化財研究所主任研究官
日時 平成16年1月22日(木) 午後3時～5時

講座 (当館講堂)

- 「戦前の県政 沖縄の県令・県知事たち」
第1回 初代沖縄県令 鍋島直彬とその時代
講師 金城 正篤 沖縄大学教授
日時 8月2日(土) 午後2時～3時30分
- 第2回 第2代沖縄県令 上杉茂憲とその時代
講師 秋山勝 沖縄大学非常勤講師
日時 8月9日(土) 午後2時～3時30分
- 第3回 第8代沖縄県知事 奈良原繁とその時代
講師 田里修 沖縄大学教授
日時 8月16日(土) 午後2時～3時30分
- 第4回 第22代沖縄県知事 井野次郎とその時代
講師 仲地哲夫 沖縄国際大学教授
日時 8月23日(土) 午後2時～3時30分

講習会 (当館講堂)

- 資料保存講習会 「保存箱とエンキャプスレーション」
講師 大湾ゆかり (財)沖縄県文化振興会 修復士
日時 8月14日(木) 午後2時～5時 (要予約)

利 用 案 内

●開館時間

09:00～17:00
(閲覧申請は16:30まで)

●交通

【路線バス】 新川バス停下車 徒歩1分
・那覇交通(株)市内線1番
・東陽バス(株)91番・96番
【駐車場】 50台 (大型バス用有り)

●開館日

(赤色の日は休館日です)

2003年 7月							2003年 8月							2003年 9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4	5						1	2					
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
20	21	22	23	24	25	26	25	26	27	28	29	30	31	26	27	28	29	30	27	28

(7月1日～4日は特別整理期間のため休館)

●入館無料

沖縄県公文書館だより ARCHIVES 第22号

発行日 平成15年6月25日

発行 沖縄県公文書館

編集 財団法人沖縄県文化振興会 公文書管理部

〒901-1105 沖縄県南風原町字新川148-3

TEL 098(888)3875 FAX 098(888)3879

URL <http://www.archives.pref.okinawa.jp>

表紙の説明

琉球列島の軍政運営の主体は、1946年7月1日付で米海軍から米陸軍へと移行した。表紙の資料は、陸軍管轄下で発行された軍政府報告書(年報)。軍政運営が陸軍に移行し一年目に発行された年報は、軍政府行政組織図(1946年11月1日付)、軍政府主要ポストに着任した将校の氏名、軍政一年のあゆみ(テーマ別/月別)で構成されている。テーマ別に見ると、日本本土・台湾・マリアナ諸島からの引揚者受入、沖縄の私企業など7項目が取り上げられている。フライマス・コレクションにはこれら資料の他にも、軍政府・民政府を通じ米国の沖縄統治時代に作成された報告書が多数含まれている。(資料コード: 0000025599ほか)